

質疑

松吉・皆様、こんにちは。JA共済総合研究所の松吉と申します。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございます。ここからの進行は、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のセミナーでは、まず北川先生から基調講演「JAはじめ協同組合の地域における可能性」をいただき、そしてJAあづみ「あんしん」の池田理事長、JAはまなかデイサロンの竹内代表に、生活支援の実践事例のご報告をいただきました。

質疑応答に入る前に、せっかくの機会ですので、まず北川先生から池田理事長と竹内代表の是非不勉強ながら、このような生活面の活動まで展開しておられることを今日初めて伺って、感銘を受けたところであります。

それで、協同組合が地域に関わる、地域貢献、地域づくり、さまざまないい方があるにせよ、おそらく3つぐらいのパターンがあるのだろうと思いつつ、お二方の実践を聞いておりました。

まず一つ目は、JAが自己完結的に、自前で地域づくり、地域に関わる活動を行うというパターンですね。これは素晴らしいJAの取り組み



北川太一氏

ご報告をお聞きになった感想など、研究者の立場から何かコメントをいただきたいのですが、お願いできますでしょうか。

北川：はい、ありがとうございます。私の報告はさることながら、池田さんと竹内さんの実践的なお話は大変勉強になりました。

池田さんのJAあづみ「あんしん」の取り組みは、これまでも何度か伺ったことがありますが、聴くたびに新しい活動が展開され、活動が深化しているのがよく分かります。

竹内さんのJA浜中町は、酪農地帯として知られ、確か早くから酪農の新規就農者の受け入れで非常に熱心なJAという印象があつて、実

みもあるのですが、昨今のJAでは、なかなか難しいのではないかなという気がしております。二つ目は、まさに池田さんのところですが、JAがインキュベーター機能といいますか、JAが長年取り組んでいた女性部活動や組織活動がだんだん拡がり・深まりを見せて、地域と結びつきながら池田さんのところは、NPO法人になりましたがJAの活動がまさにきっかけというか、母体となつて、地域に関わりあいだしていくというパターンだと思います。

そういう意味では、女性部活動や、助け合い活動など、もともとさまざまな活動がベースにあるというところは忘れてはいけないと思います。

それから三つ目は、JA浜中町のように、まさにJAと地域のいろいろな活動団体が連携をするということです。

もちろん竹内さんのところは、もともと酪農

家の方が関わっていたこともあるのですが、全国的な事例を少し思い浮かべても、何かひよんなことでJAと地域の活動が繋がり、それが連携関係になって…というパターンもあるかなと思います。

ひよっとしたら他にもパターンがあるのかもしれませんし、今いった三つのパターンというのは、重なり合っている部分もあるだろうと思います。

あともう一つ、お二方の活動報告を聴いて感じたのは、単に抽象的に、思いや願い、理念を振りかざすのではなくて、実際に調べたり、客観的な数値で課題を見つれたり、つまり暮らしの問題を「見える化」しているということが素晴らしいなと思いました。

これはすごく大事なことです。時には池田さんのところのように、さらに実践に移したりしながら、対話というプラットフォームをつくっ

【質問1】

小さな協同活動が拡がっていく背景には、学習活動を通じて生まれた会員の「やりたいという思い」だけではなく、地域内外における人脈のつくりかたなども鍵となったと推察します。NPOやJAによる支援体制などがあれば、お聞かせください。

池田…ご質問の答えになるかどうかは心配でございませけれども、私は協同組合の活動を長い間、いろんな組織活動をやってきて感じたことというのは、やはり自分たちの思いを実現するための計画。そしてそれを実践していく。そしてその時には自分たちが将来こういうような資金計画のところまで考えながらも自分たちで実践する学習活動をしようと思いました。そこで、生き生き塾が始まる時に、やはり学びというところから、協同運動とはどういうものなの

ておられるところが本当に素晴らしいな、そのあたりが活動展開の示唆かな、と受け止めました。さしあたり以上です。

松吉…北川先生、ありがとうございました。

それでは、これより質疑応答に入らせていただきます。

本セミナーの参加申し込みの際にお寄せいただいたご質問、および本日も視聴いただいた皆様からチャット機能を通じてお寄せいただいたご質問に対して、登壇者の皆様にご回答いただくことですすめて参ります。

それでは早速ですが、池田理事長にご質問をいただいております。

だろうか？ということ、多くの講師の先生から伝えていただきました。

生き生き塾の時にいろいろな学習活動をするのですけれども、先ほどお話をしたように、「五づくり畑」や「菜の花プロジェクト」とか、多くの活動をたくさん生み出してきております。けれども、その活動は自分たちがやりたいと発案したら、それをどういう形にして、どういうふうにして、そしてどういう資金計画まで立てながら頑張っていくのだろうか？ということ、これまで考えながらすすめて参りました。



池田陽子氏

ですから「五づくり畑」も、はじめは小さなコンテナの上に、戸板を載せての直売だったのですが、みんなでいろいろと考えて、少しずつお金を出し合って、最終的にはちょっととした小さなテントを買い、売る場所をつくって参りました。

そんなふうには、やってみたいと思う仲間たちが集まって、みんなで知恵を出し合った結果が今、小さな協同活動の発展形になって、それがNPO法人というところまで大きな一歩を踏み出したという感じがしております。

私はNPO法人の活動をやっていくなかで、ヒト、モノ、そしてお金（の確保）というのは、やはり常に心がけていることだと思います。

けれども、私の土台になっているのは、そこで学びながら、人を育てながら、「どうぞ、どうぞ、楽しくやっていきましょう。そうしたら次の目標が見えるよ。」という仲間たちの声がある。

【質問2】

今後、JA助け合い活動の担い手を多様なものとしていくという意味で、男性や年代・職業が異なる人々の参加を増やしていく方法を考えることが大事だと思います。

何かアイデアがあれば、教えてください。

松吉・竹内代表のご報告のなかで、男性の会長さんが積極的に参加されているとお話がありました。参加者を幅広く増やしていくアイデアがありましたら教えてくださいませんか。

竹内…とかく、こういった介護予防の活動は、女性の参加者が多くて、男性が少ないといわれています。

デイサロン自体もやはり、参加比率としては女性が多く男性が少ないです。それでもこれまで、男性も数名の参加がありました。皆様お

どンドン聞こえてくる環境をつくることだったのかなと感じております。

そしてあえて、先ほどお話がありましたように、NPO法人やJAによる支援体制を考えるとすれば、形を整えていけば、何かそこに集まってくる拠り所もできるわけです。

ですから、拠点づくりをもう少し広げていけたら、将来に向けたワクワクした思いを伝えながら、皆さんと一緒にいければ、と思っているのですが、JAの方々から、そして今回セミナーに出させていただいた仲間の方達からお力をいただければありがたいと思っております。以上です。

松吉・池田理事長、ありがとうございました。

亡くなりになられてしまつて…。現在もなかなか男性の参加が少ない状況であります。

そうですね、男性や、年代・職業が異なる方々など、多くの方に参加していただきたいので、私たちから「参加してください」という広報はいくらでもできます。

けれどもやはり一番は、口コミといいますが、「あの場所は楽しいから、一緒に来ない？」とか、「参加してみませんか？」という、利用されている方の評判とか、お誘いで来てくださる方が一番の強みといえますか、そういった繋がり



竹内美妃氏

方が続いているように思います。

これまで来てくださった方も「誰々さんに誘われたから」とか、「いいよといわれたから」ということで、お友達同士や、地域のなかで評判が上がれば参加しやすいのかなと思っております。

ですので、今参加して下さっている方が楽しく過ごし、噂が広まって「一緒に行かない?」とか、「行ってみるといいよ」となり、増えていくのが一番かなと考えています。以上です。松吉・竹内代表、ありがとうございます。

うのは、酪農家が専門的に従事し、さらに生活面の問題にまで深めているということ。私の報告でも、広い意味での近代化という、農業、暮らしあるいは自己成長を、JAとしてきちんと捉えていくことが大事かなと思えました。

「接着剤」と一言でいうのは簡単で、実際には難しいのかもしれませんが、これは今、池田さんが答えられたように、ヒト・モノ・お金、さらには情報ですね。地域のなかで一人一人が役割を果たしながら、いろいろなアンテナを張ることが非常に重要だと感じました。

昨今JAはいろいろなことをいわれていますが、JAの事業に従事してきた方々というのは、実は地域でいろいろな役割を持って活動していることが多いです。さらには生活指導員さん、営農指導員さんのように、いろいろな経験を積んだうえで、地域に拡げて活動している方も多

【質問3】

二つの実践事例については、北川先生のご講演でご紹介のあった「レイドロー報告」の四つの優先分野のうち、「協同組合地域社会の建設」と照らしあわせると見事に合致していることが興味深いと思いました。

ただ、こうしたユニークな活動に取り組み、池田理事長や竹内代表のようなリーダーシップを持った実践者の存在だけでは、暮らしやすい地域づくりの達成はなかなか難しい部分もあるのではないかと思います。

協同組合が「社会的接着剤」になるために、協同組合で働く人々、組合員に求められることは何でしょうか？

松吉・北川先生、よろしくお願いたします。

北川…はい、先ほどちょっといい忘れたことも含めてですが、例えば、浜中町の取り組みとい

いです。

そういった人材を地域のなかで活かしていくような取り組み、それはやはりJAとしてやる場合もあるでしょうけど、さまざまな協同的な連携の場で、それを実現していくことが大事ですし、地域のなかで、組織や団体の人達、あるいは個人でもいいのですが、寄りあって、いろいろと思いの丈を話し合う場をつくるということも、これまた大事なかなと思えました。

以上です。ありがとうございます。

松吉・北川先生、ありがとうございます。

質疑応答は以上とさせていただきます。

改めまして、北川先生、池田理事長、竹内代表、今日はどうもありがとうございます。

ご質問いただいた皆様も、ありがとうございます。